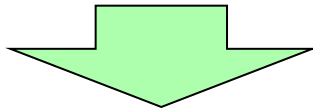


佐伯市(九州・沖縄ブロック)

【計画期間 22年3月～27年3月】

- ・江戸期：佐伯藩2万石の城下町として発展、水産や木材で潤う
- ・明治～：港が開港、日豊本線開通、市街地が拡大
- ・平成～：旧佐伯市と南海部郡(5町3村)が大合併(H17)

- 郊外への大型店の進出、中心市街地の核商業施設の撤退により、商業機能が低下。
- 中心市街地の顔である大手前地区に核商業施設跡地が残存し、衰退イメージを増進。
- 佐伯IC開通により観光客数は増加傾向にあったが、既に頭打ちの状況。中心市街地への波及効果は希薄。



○歩行者・自転車通行量

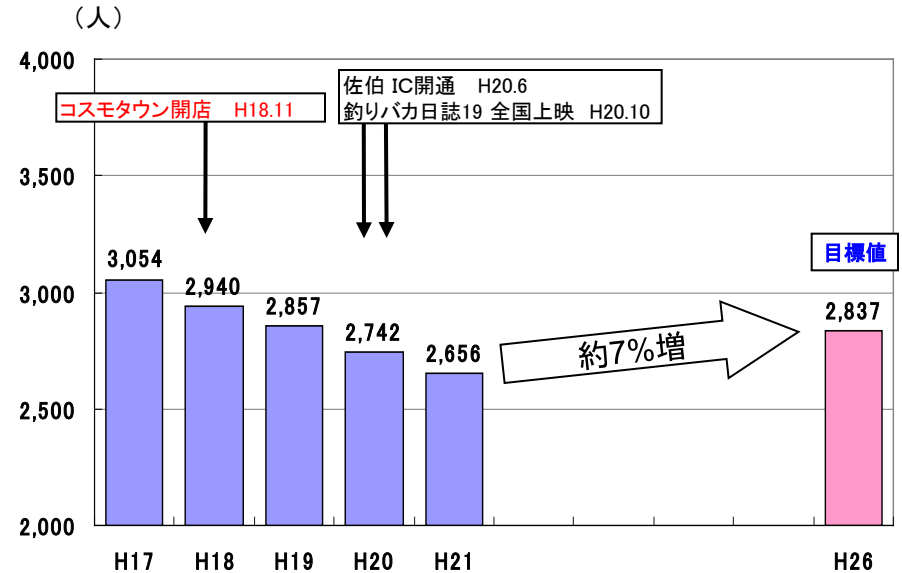
H17:3,054人 → H21:2,656人(▲13.0%)

○観光入込客数(歴史と文学のみち)

H15:156千人/年 → H19:141千人/年(▲9.6%)

目標	指標	現況値	目標値(H26)
地区住民・市民が集う街	歩行者・自転車通行量	2,656人(H21)	2,837人
来街者(観光客)が集う街	観光入込客数(歴史と文学のみち)	141,000人/年(H19)	156,000人/年

【歩行者・自転車通行量[平日・休日4地点]の推移と数値目標】



注)H17～H20は公共交通利用者数より推計

■大手前地区再開発と都市機能の配置、回遊性の向上によって便利で暮らしやすく市民が集う街を目指す。

⇒主要事業:①土地区画整理事業・市街地再開発事業、②おやこ広場事業、③チャレンジショップ・空き店舗活用事業など

■豊かな自然、歴史的観光資源、食を活かした街歩き観光により来街者(観光客)が集う街を目指す。

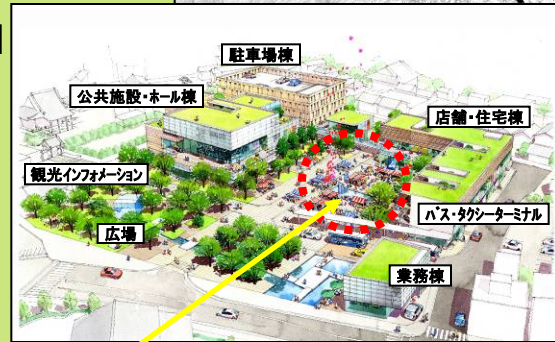
⇒主要事業:④(仮)城下町観光交流館整備事業、⑤歴史資料館整備事業、⑥魚市場活用事業など

佐伯市中心市街地活性化基本計画の事業概要

地区住民・市民が集う街

○大手前地区土地区画整理事業及び第一種市街地再開発事業 ①

旧寿屋跡地を含む大手前地区の土地区画整理を行い、市街地再開発を一体的に実施。店舗や住宅、地域交流センター、広場、バスターミナル等からなる複合的施設を整備し、かつての賑わい拠点を再生。



○佐伯マルシェ ①

複合施設に囲まれた広場において、魚介類や農産物など地場産品を販売する市場(佐伯マルシェ)を開催。



○おやこ広場事業 ②

商店街において公設民営による子育て拠点施設を整備。街なかの生活環境の向上を図る。

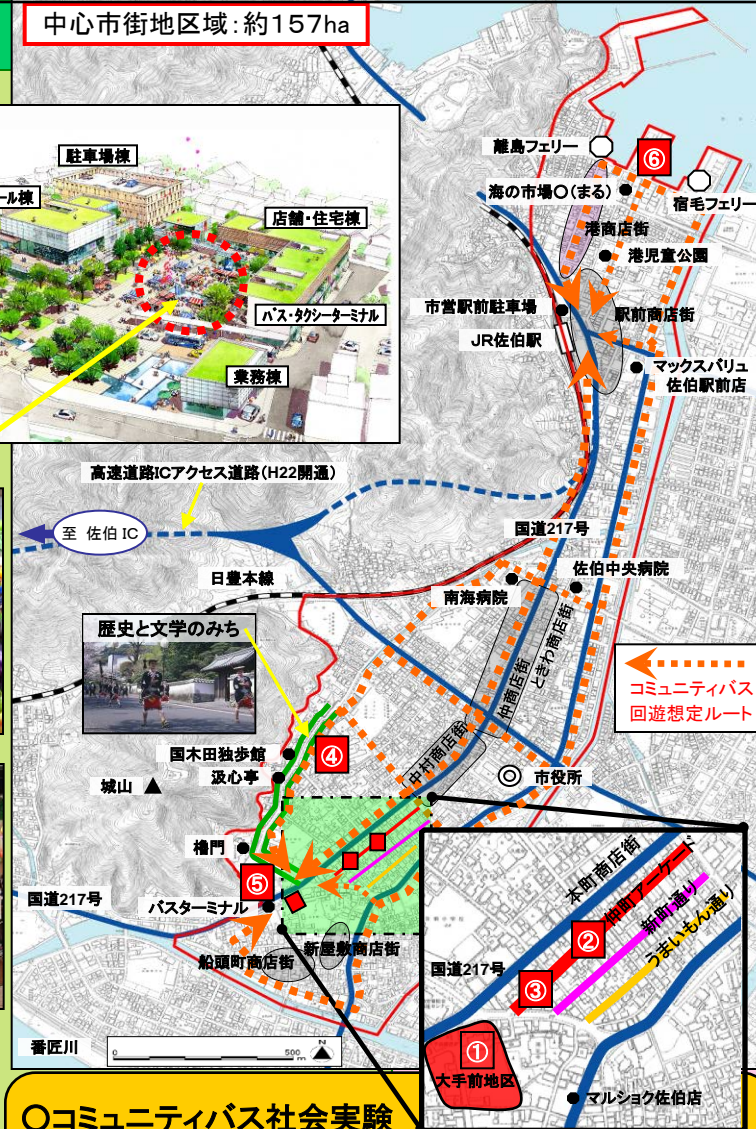


○チャレンジショップ、空き店舗活用事業 ③

若手商業者の育成、経営相談により空き店舗の解消を持続的に実施。既存業種とは異なる店舗開業を支援し、商店街の魅力を高める。



中心市街地 区域：約157ha



○コミュニティバス社会実験
各主要施設を回遊するコミュニティバスを運行。市民対象ルートと観光対象ルートに分け、ニーズにあわせた最適ルートを導き出し、回遊性の強化による利便性の向上を図る。



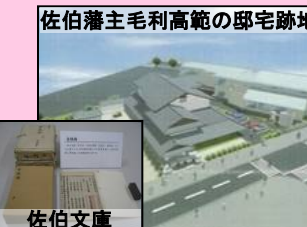
来街者(観光客)が集う街

○(仮)城下町観光交流館整備事業 ④



昭和14年建築
歴史的趣を残す旧旅館を、ギャラリーや休憩スペースを備えた観光・地域情報を発信するビクターセンターとして整備。

○歴史資料館整備事業 ⑤



藩主邸宅跡地に歴史資料館を整備。毛利家遺品・佐伯文庫等を保存・展示し、市の歴史・文化を継承・発信する拠点施設として観光客を誘致。

○「食」企画事業



佐伯を代表する食を柱としたグルメイベント、食育事業を展開し、「食のまちづくり」を推進。食による集客と地産地消の実現を図る。

○魚市場活用事業 ⑥



競り市場を開放し、市民・観光客を対象とした公設市場として活用。海鮮バーベキューや男の料理教室などの企画を展開し、港周辺への集客を図る。